

清友

御染筆 猶有齋宗匠

表千家福井県青年部
青年部だより
第18号
2024.3.25

「清」…和敬清寂の清
「友」…青年部の交流が広がって
いくように



チャリティー茶会

令和5年12月3日(日)
福井県国際交流会館 ホワイエ

「茶の湯文化にふれる市民講座」に併せて開催されたチャリティー茶会にて青年部は立礼席を担当させて頂き、約200名のお客様がご来席くださいました。

当日は時おり雨の降る不安定な天候でしたが、会場の中では外の様子を感じさせず、雲の切れ間から日差しが入る落ち着いた雰囲気となりました。而妙齋宗匠筆の「紅葉染秋霜」の短冊に併せて生けられたエゴノキの黄葉や赤い嵯峨菊も深まる秋を想わせていました。

茶席が始まるまでは緊張の面持ちの部員が多く見られましたが、お客様の温かい雰囲気で緊張もほぐれ、席数を重ねるほどに普段のお稽古の成果が発揮できていました。

お道具では7月に絵付け体験をした青年部作品

の棗を使用し、拝見されたお客様にも「とても上手」「きれいな作品」とお褒め頂きました。他の作品も会場内に展示し、個性豊かな絵付けの数々をお客様に楽しんで見て頂けました。

また市民講座後のお席で虎屋文庫の中山圭子氏が入られた際には、福井の冬のお菓子「水ようかん」のお話を大変興味深くお話されていました。今回は新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、4年ぶりに青年部の担当となったため、ホワイエでの茶席が初めての部員も多く不安なところもありましたが、親先生や引退された先輩部員の方々のご指導を多く頂き大変勉強になりました。ひとつひとつの経験が自分自身の成長につながっていることを認識して今後も邁進してまいります。

会 記

朱大傘に 而妙斎筆短冊 紅葉染秋霜

花入 越前焼 砧掛 竹元郁雄作

花 嵯峨菊 エゴノキ

釜 亀甲鶴首 敬典作

而妙斎好布目立礼卓 漆専堂製

水指 紅鹿背捻貫形 豊斎作

茶器 青年部員絵付 黒中棗

茶碗 大樋 飴 年郎作

替 色絵吹寄画 竜宝作

茶杓 光悦寺の竹を以て 銘 千代の友

尋牛斎筒箱書付

建水 唐銅エフゴ

蓋置 黄交趾 桐透かし 香斎作

菓子 吹き寄せ 飛嶋製

薄茶 而妙斎好 小松の白 上林春松詰

灰皿 膳所焼



チャリティー茶会に参加して

今回のチャリティー茶会で、初めて立礼卓でのお点前をさせていただきました。上手くできるかという不安と緊張があり、お稽古通りにはできないところもありましたが、お点前中にお客様を見ると、笑顔で楽しんでいる様子が多く見られたので、安心しました。最後まで落ち着いてできたと思うので、良かったです。お茶席には多くのお客様に来ていただき、お菓子やお茶をお出しする際には、「美味しかったです」「可愛らしいお菓子ですね」と声をかけてくださる方もいらっしゃいました。少しずつコロナ流行前のお茶会の賑やかさが戻ってきたようで、嬉しく思いました。多くの方に助けていただいたり、教えていただいたりして、新しく学ぶことも多く、良い経験と思い出となりました。

平井 利奈

棗の絵付け体験

令和5年7月2日(日)

鯖江市越前漆器伝統産業会館 うるしの里会館

今回は、鯖江市の「うるしの里会館」にて棗の絵付け体験を行いました。鯖江市の伝統工芸である越前漆器は約1500年の歴史があり、日本最古の漆器産地であると言われています。

うるしの里会館では、漆器の製造工程や歴史、新しい漆器づくりの取り組みについて学ぶことはじめ、伝統工芸士による漆器づくりの実演を見学、ワークショップとして絵付け・沈金・拭き漆体験をすることができます。

通常の体験では棗は扱っていませんが、今回棗に絵付けをさせていただきたいとお願いしたところ、快くお引き受けくださいました。体験には14名が参加しました。

青年部ではこれまで3回の棗の絵付け体験を行っていますが、新たに興味を持たれた方をはじめ、過去参加したことのある方も楽しみに参加されました。

当日は、蒔絵の伝統工芸士、駒本蒔絵工房代表の駒本長信先生のご指導のもと、各種漆器・茶道具・販売の荒井漆器店の黒の中棗に絵付けを行いました。



■ 体験内容

紙にデザインを起こします。または体験用に用意されているデザインから好みのものを選びます。カーボン紙を使用し、紙のデザインを棗に写します。細かい筆を使い、漆に近い塗料で描いていきます。乾燥したら水洗いし、写した下書きを消します。



どのような絵柄にしようか自分で決めてこられた方、通常の体験用に用意されている絵柄から選ぶ方、先生に相談に乗っていただく方と様々ですが、デザインが描けた方から早速カーボン紙を使って下絵を写していただきました。

そして細かい筆を使い、赤・青・緑・白・黄・金・銀の7色の塗料で描いていきます。原色で使ったり、混ぜて中間色を作ったりと自分だけの色で彩ることもできます。

細かな絵柄を描いている方、思い切り描かれる方、外側だけでなく内側にも描く方とさまざまですが、リラックスし、和気藹々とした雰囲気の中カラフルな作品が仕上がっていききました。出来栄えに満足の方もいれば、もっとじっくり時間をかけて挑戦したいと思われた方もいますが、また一つ自分の茶道具ができたことに喜びを感じました。



越前漆器の生産工程には大きな特徴があり、素地づくり、塗り、加飾などさまざまな工程の作業を専門家が行う分業体制が確立していることです。これが美しさ、堅牢さなど品質の安定と、高い生産能力につながっています。

また伝統的な木製の漆器だけでなく、合成樹脂素材や化学塗料を使い、より安価で丈夫な商品を消費者に提供することも積極的に取り組んでいます。

現在、外食分野で使われる漆器の大半は合成樹脂でできていますが、その8～9割は越前漆器の産地で生産されています。

福井の越前漆器という伝統文化が従来の分野だけでなく、さまざまな分野で認められ必要とされ広がっていることは、素晴らしいことであり、まだまだ可能性を秘めた魅力流ものなのだと感じました。漆器は高級で扱いにくいイメージがありますが、より生活に馴染んだものとして普及していくと嬉しいです。



■ 漆について

「うるし」という言葉には、かつて「潤夜」、あるいは「潤美」の字が当てられていたこともあったと言われています。うわべの華やかさを突き抜けた奥深い美しさをたたえる越前漆器は、漆が生活のすみずみに息づく越前だからこそのものではないでしょうか。

この美しさは茶の湯の美意識にある、歌人兼好の『徒然草』「花はさかりに、月は隈なきをのみ、見るものかは」という、不完全・不足をかえってよしとする不完全美や、心の眼で見る美しさをたたえる思想、茶の湯独特のもの静かでどこことなく寂しげな境地、あるいは色彩感を否定したような枯淡な趣を美意識とする思想に通ずるものがあるようにも思います。

棗の絵付け体験に参加して

ちょうど半夏生の日、うるしの里会館で棗の絵付け体験をしました。うるしの里会館に入ると様々な作家さんの漆の作品が置いてあり、それを見て、今日体験する絵付けは上手く描けるかなと、不安と期待が混じりつつ会場に入りました。

用意されていたのは黒の中棗。いつもお稽古などで使っているサイズが手に馴染みます。そこに、持ってきたデザインや用意して頂いていたデザインを写していくのですが、丸みを帯びているところに移すので結構難しい！ 写し終われば、次は絵付けです。筆に漆を含ませ描いていきますが・・・これがまた難しい！ やはり皆さん無心になって描いていたので、一時会場がとても静かになりました。

1人、また1人と完成していくと、緊張がほぐれ、お茶の事やお稽古の事など、いろんな話に花が咲きました。

最後は皆さんで自分が絵付けをした棗と共に記念写真。皆さんの素晴らしい絵付けが本当に凄かったです。貴重な体験を企画頂き、誠に有難う御座いました。

吉川 善生



令和5年度 総会

令和5年7月2日(日)
うるしの里会館

今年度の総会は、棗の絵付け体験と同日に開催しました。来賓として、青年部相談役の島田幸子様（同門会福井県支部事務長）がご出席くださいました。

まず、島田相談役よりご挨拶いただいた後、前期の部長・会計・会計監査より前年度の行事報告・決算報告・会計監査報告がなされました。続いて、今期の部長・会計より今年度の行事予定・予算案が報告されました。また、今年度は3年ごとの役員改選の年にあたり、新役員の就任が諮られました。

全ての議案が満場一致で可決され、閉会しました。

総会後は、会館内の茶室「漆黒庵」にて呈茶席を設け、季節のお菓子で一服のお茶を楽しんでいただきました。



就任のご挨拶

青年部部长 吉田 かおる

今年度より青年部部长という大役を仰せつかりました。未熟ではございますが、精一杯務めて参りたいと思いますので、皆さまご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

新型コロナウイルス感染症が第5類に移行された今年度はコロナ禍以前のように行事を開催することができました。これもひとえに支部長をはじめ、事務長、親先生、部員の皆様のご協力のおかげと感謝しております。

さて、今年の3月16日には北陸新幹線が敦賀まで延伸し福井に県外、国外から沢山の方が来福されるといわれております。

「茶の湯は常の事なり」と言われるように、青年部の皆さまがおもてなしの心で福井にお越しのお客様をお迎えし、茶道そして福井の魅力を伝えることが出来ればと思います。

今年も茶の湯への理解を深めるべく、行事を計画して参りますので、皆様のご参加、ご協力をお願い申し上げます。

着付け教室

令和5年11月13日(月)・15日(水)
国際交流会館3階和室

チャリティー茶会を間近に控えた11月の中旬に着付け教室を開催しました。青年部としては3回目の開催になり、今回も美装心きもの学院 品川美知子先生にご指導いただきました。品川先生は学校茶道茶会の際、毎年ボランティアで大勢の着付けをされていました。

平日の2日間、午後6時半から2時間、女性部員4名が参加されました。各自名古屋帯を持参し、手結びでの帯結びの習得が目標です。

普段から自分で着ている方、自分で着るのは初めての方など、個人差はあるものの、基本を一から学ぶことにより、普段のやり方を見直すことができました。

また、それぞれに疑問や悩みを質問させていただきました。例えばお茶会のお手伝いなど長時間



の着用においては特に襟元の崩れが悩みの種ですが、長襦袢を着る際の紐の使い方をアドバイスいただき、襟元を締め付けることなく、楽しく着られることを知りました。ちょっとしたコツや工夫で着付けを楽しめ、自分なりの着方ができるのだと思います。



帯結びに苦手意識を持っている方が多く、先生の指導に皆真剣に臨んでいました。随所で手の使い方や角度など声をかけてくださり、何度も繰り返し結ぶことで、徐々にコツをつかむことができました。

着付けでは、意外にも「帯締めが命」と言われるそうです。最後の仕上げにキュッとしっかり帯締めを締めると、身も心も引き締まりました。

自宅でも繰り返し練習し、今回の講習をいろいろな機会に活かしていただきたいと思います。

着付け教室に参加して

今回、平日夜2日間の着付け講座に参加させていただきました。着付け＝難しそうという勝手なイメージがありましたが、基礎的なところから教えていただき、「自分で着られるようになる」という魅力的な案内文の通り最終的には何とか着物を一人で着るところまで辿り着きました。

講座では一通りの着付けだけでなく、ちょっとした裏技なども先生から教えていただきました。紐の結び方や用途別の使い分けなど、たくさんの質問にも丁寧に教えていただけたので、とても学びの多い時間となりました。楽しい雰囲気の中で身に付けた今回の学びを忘れないように、時々イメージトレーニングして学んだことをキープしたいと思います。

大杉 紗世

令和6年度 行事予定

7月頃 令和6年度青年部総会
研修旅行(朝倉氏遺跡)

9月頃 茶道具ものの作り体験

12月1日(日) チャリティー茶会

各行事が近づきましたら、詳細および申し込みについて、ご案内いたします。
ぜひお気軽にご参加ください。

令和6年度 年会費納入のお願い

年会費 2,000円

納入期限 令和6年4月末日

期限内に、同封の振込用紙にてお振込み、
または振込用紙に記載の口座にご送金ください。

表千家ホームページ 表千家不審菴「茶の湯 ころろと美」

www.omotesenke.jp

大変ためになる情報が掲載されています。

同門会会員の方は「同門」に会員専用ページのパスワード等が記載されておりますので、そちらもご覧ください。

青年部入会のご案内

茶の湯を通して、人と人の輪を広げ、茶の湯の
楽しみを分かち合いましょう。

お知り合いの方で、まだ青年部にご入会されて
いない方がいらっしゃいましたら、是非お誘い
ください。

～入会条件～

年齢が18歳から45歳まで、表千家不審菴入門
者であれば、先生の推薦によりどなたでも入会
できます。

青年部を退会される部員の方へ

令和6年度4月1日時点で46歳になられている方
(昭和52年4月～昭和53年3月生まれの方)は、
青年部退会となります。

※自動退会となるため手続きは不要です

青年部を退会される方は、年会費納入期限まで
に必ずハガキにてご連絡ください。なお、親先
生のご推薦により青年部に入会しておられます
ので、退会手続きの前に必ず親先生にご相談く
ださい。

編集後記

清友第18号の発行にあたり、青年部の活動にご協力賜りました
先生方をはじめ部員の皆様には心より御礼申し上げます。

今年度はコロナ禍がようやく明け、チャリティー茶会の青年部席を
4年ぶりに持たせていただくことができました。準備や当日の分担な
ど、色々な面において至らなさを痛感するとともに、改めて部員同士
の交流の大切さ、お客様をおもてなしする喜びを感じる貴重な機会に
なりました。また、元旦に起きた能登半島地震による甚大な被害を目
の当たりにし、日々の生活が決して当たり前のものではないことを痛
感致しました。茶の道を志す私たち一人ひとりができることを今一度
問い直し、生きる糧としていけるようこれからも精進して参りたいと
思います。

編集委員 宮田、野路、奥野

青年部連絡先

吉田 かおる

〒910-0855

福井市西方 1-6-9 ビブレ西方 507

電話 090-2837-2375

発行責任者・発行所

表千家同門会福井県支部事務所内

表千家福井県青年部

〒910-0809

福井市舟橋町 7-52 島田方